

シドニーでの経験

名古屋市立富田高等学校 2年 鈴木萌愛花

1.私の研修の目標

私は、今までに海外へ行ったことがなかったので日本との様々な面での違いを知り、そして、名古屋市のアンバサダーとして、文化の交流を積極的にしたいと思いました。また、幼い頃から続けている書道の魅力を伝えることや、12日間親元を離れて過ごし自立することも目標でした。もちろん、自分の英語力を試すことも大きな目標でした。

2.事前の準備

事前の準備では、書道の先生と相談して日本らしさの出る漢字を選んだり、書道の歴史について学びました。また、事前研修で行った名古屋についての発表の中で、他の高校の発表で気になったことを自分で調べてみたり、説明できるよう準備しました。ホストファミリーへのお土産の折り紙の模様になっている桜の説明や、わさびがスライム状になったおもちゃをお土産として持って行ったので、お寿司についても説明出来るようにするなど、オーストラリアの人の疑問に対して十分な説明が出来るようにイメージしながら準備をしました。

3.シドニーでの経験

海外派遣のプログラムには様々な研修内容がありましたが、その中でも一番印象に残ったのは、ホームステイとブルーマウンテンズグラマースクールでの体験入学の3日間でした。

私の場合、バディーとホストファミリーが違う特別な形式だったので、初めはとても緊張していました。バディーは学校の施設やたくさんの友達を紹介してくれました。ホストファミリーの人たちは放課後、色んな観光名所に連れて行ってくれました。彼らの心の温かさに安心して、どちらにもすぐに心を開けるようになりました。

ブルーマウンテンズグラマースクールではバディーと一緒に授業を受けたり、リセスの時間を楽しみました。私がシドニーでの学校生活を体験して一番驚いたことは、授業と授業の間に放課がないということです。リセスという、おやつを食べる時間と昼食の時間しか自由な時間がなく、60分

の授業が終わると生徒は一斉に次の授業の教室へ向かいます。私はこのことから、オーストラリアの学校では、生徒に任せることが日本よりもたくさんあると感じました。授業も選択式なので移動先はみんなバラバラだし、時には間違った教室へ行ってしまう生徒もいると聞きました。先のことを考えて行動し、自分のことは自分でやるという教育方針が強く感じられました。また、生徒は自ら授業中に挙手し、みんなで意見を出し合うことがほとんどで、日本に比べて生徒がとても主体的に授業に参加していると思いました。

4.研修の成果と今後の課題

<成果>

目標を達成しただけでなく、現地で見たこと、感じたこと、疑問に思ったことを自分の言葉で話すことが出来るようになりました。また、一番成果を実感したのは、英語を聞く力がついたということです。初めは話していることを全然聞き取ることが出来ませんでした。時間と共に耳が慣れ、現地の人々が、自分が考えていたよりも簡単な文法を使って話していることや、現地の人ならではの言い回しに気づくことが出来ました。

<課題>

現地の高校を訪問してみて、いかに日本の高校生が受動的であるかを実感したので、もっと授業に積極的に取り組むべきであるということを普及したいです。また、英語を話して通じた時の喜びを忘れずに、そして、何と書いていいのか分からなかった時の悔しさをバネに、今後の英語学習に励みたいと思います。



小学生が書道の体験をしている様子